

六月七日

七時半起床。良く眠った。24階の窓から広島4の梅雨空を眺めてしばし空白の時間を得る。広島4の市民団体が本当に動き始めてくると嬉しいが、半分期待して、半分ゆっくり待つ気持でいたい。人間が沢山集まれば、喰い違いや行き違い、関心の温度差そして対立が起きるのは自然だ。それを全て包含してゆくのは平岡さんしか出来ないだろう。建築の設計と同じで、最期は個人名に表現される考えのバックボーンが必要だ。六階の和食レストランで朝食。外に大きな樹木を植え込んだ庭がつくってあり、その緑が気持ち良いのだが。完全密閉された空調の室内で風が流れ込まない。それで、外の緑がいかにもの（キッチン）に視えてしまう。キッチンというのはそういう「意味」の閉鎖状況であるのかも知れないな。という事はガラスの箱の中にいる私はキッチンなマネキンか。九時前広島駅。まだ汽車の時間まで時間があるので駅構内でコーヒを飲んで時間をつぶす。しかし、こんな風につぶしている時間の方が、仕事と称してジタバタしている時間よりも意味は大きいだろう。少なくとも色々考えるから。帰りののぞみは四時間、黄金の時間だ。九時三十一分発のぞみ8号で東京へ。のぞみの車窓から眺める風景の連続は、のぞみが一向に視えぬと言う。これはこのハイテク列車、しかもビジネス用の時速三百kmの速力で走る列車の名前をつけた人は実にスウィフト・クラスの風刺家であったとは思えない。のぞみ内車内放送のチャイムが嫌だ。

山口百恵が多分唄っていた旅立ちだったか、アリア日本の何処かにいーという何処かに希望がありそうだと言うセンチメンタルなメロディーがビチヨビチヨ流れてくる。嫌だ嫌だと思っていたら京都についた。京都駅は実に同様に嫌な建築である。甘い思想に基盤を持つデザインがたれ流されている。日本のバブル経済の幻影の城だな。人口が減衰しながらあと三〇年経ったら、京都は精神的荒廃の極に落ち入っているのではないか。都市の出入りに過ぎぬ駅舎が、こんなに多くの商業性をまとわせて何になるのか。十三時半東京着。十四時半研究室。幾つかの打合わせ。十八時デービッド、野村と会食。デービッドのハイデガーの小さなエッセイ「道」に関する話を聞く。この人は良く考えている人だ。日本の学生のイージーさとは違うものを持っていると思う。二十一時前修了。二十一時半世田谷村に戻る。今日はいささか疲れた。原稿書いたり、銅版画を彫つたりの気力は無い。

六月八日

八時前起床。昨夜も夢をみないで良く眠った。そう言えば最近夢をみる事が無い。以前もそれ程多くはなかったが、この頃は皆無である。現実を追われているのだろう。居間の吹き抜けのパキラの樹が二つ目の花を咲かせた。4メートル程に育って室内に樹陰を作るようになった。

今六月九日の一時過。もう六月八日の事を明白に思い出せない。記録をつけている事が如何に重要なのかは、その事辺りにある。自然に流れれば徹底的に空白になってしまう。

九時前、八代建設西山社長紹介の電機屋さん、世田谷村に来る。しかし、何かピンとこない人なので、すぐに工事の件は断ってしまう。イヤな奴とは附合っているヒマはない。家内のアレンジで

富士ヶ嶺聖徳寺へ走る。十二時過、聖徳寺現場着。中川さん、工  
事会社社長と会う。お金の問題をしばし話し合う。中川さんの度  
量大きいと感じた。内部に家具その他運び込まれ、いささか風趣  
をそがれるが、それはそれで仕方がない。この建築は中川さんの  
モノなんだからオーナーの好みが溢れ返るのは当たり前なのだ。  
東京に戻る。世田谷村帰着十七時半。森田工業二代目としばし話  
し、十八時過発。新宿西口コーヒーショップで研究室スタッフと  
腹ペコになりながら打ち合わせ。二十三時過迄。一時過世田谷村  
帰着。遅過ぎる夕食をとる。